

実証授業校: 弟子屈町立川湯小学校様 現地に ICT 支援員を配置しての実証事業

ICT 支援員は先生方の ICT 活用をサポートします！

- ◆「一人一台の端末」等、せっかく予算をかけて ICT 機器を整備しても、ICT に得意な先生や興味・関心のある先生だけが使用していたら、教育効果は限定されたものになってしまいます。また、働き方改革の面からも、ICT 機器のことはかりに時間をかけるわけにはいきません。全ての先生が、ICT 機器を活用することで学校力は高まり、教育効果が表れてきます。
- ◆各学校で ICT 機器を活用することで教育効果を上げるための一つの方策として、ICT 支援員の配置を国は進めています。そのために 4 校に 1 名が配置できるように、地方財政措置として予算化されています。国が推奨する ICT 支援員体制は巡回方式により学校における①授業支援②教員研修および③校務支援を行うとなっていますが、その課題として授業支援が疎かになる可能性があることや小規模自治体は 4 校以下の学校数がほとんどであるためになかなか ICT 支援員を配置できないということがあります。
- ◆今回、弊社では現地で人材を確保することで、1 校に 1 名の配置を推進し、各学校の先生方をサポートし、ICT 機器が十分に活用できるようにするためにどのような課題等があるのかの実証を行いました。結果、非常に手ごたえをえるものとなりました。その報告をさせていただきます。



ICT 支援員とは、学校で ICT を利用した授業が円滑に進むように、教員や児童生徒の ICT 利活用を援助する役割を担った方のことです。また、研修における ICT 利活用の支援や、学校の校務における利活用の支援もおこないます。

弟子屈町立川湯小学校(中岡美緒校長)における実証事業の概要

【実証校】 弟子屈町立川湯小学校

【期 間】 令和元年11月28日 ~ 令和2年2月29日

【目 的】 授業支援を充実させるために、ICT 支援員の役割を「現地業務」と「巡回・後方業務」に分離させ、授業支援を現地で採用した ICT 支援員が行うことにより、先生方の ICT を活用した授業をサポートし、先生方の負担を軽減することができるかを検証する。

【方 法】

- ・ ICT 支援員の役割を「現地業務」と「巡回・後方業務」に分離させ、「現地業務」は現地で採用する ICT 支援員(現地 ICT 支援員と呼ぶ)が担当する。
- ・ 現地 ICT 支援員は専門的な知識・技術がなくても可とする。その不足部分は「巡回・後方 ICT 支援員」がサポートする。
- ・ 後方 ICT 支援員による校内プログラミング研修会の実施
- ・ 公開授業の実施(教育委員会を招いて)
- ・ 現地 ICT 支援員、後方 ICT 支援員等との密なコミュニケーションの確保

【貸出機器】

- 1 iPad (一クラス分の台数) 16 台
- 3 AppleTV 1 台

- 2 充電保管庫 1 台
- 4 モバイルルーター (無制限) 1 台

【実証事業取組イメージ図】



【令和2年1月17日】後方 ICT 支援員による校内プログラミング研修会の実施

- 1 目的を達成するために、行動を一つ一つ分解して考えていくことが大切であると改めて考えることができました。アンプラグド教材の実践、総合以外の他教科でのプログラミング教育の実践をもっと知りたいと思いました。まずは自分自身のコンピューターのスキルを高めていく必要もあると感じたので、そのような研修もしていただけたとうれしいです。ありがとうございました。勉強になりました。
- 2 プログラミング教育・プログラミング的思考等ではっきりと区別がついていなかった部分がとてもはっきりしました。どのような手段でプログラミング的思考を身につけさせられるか研修していきたいと思います。ありがとうございました。
- 3 プログラミングの基本というか、いろはのいが理解できたと感じている。プログラミング的思考を子供たちとどのように実践して積み上げていくかがこれからの課題になる。ICT 機器を効果的、目的に合わせて使用しながら、プログラミング的思考を取り入れた授業を作っていきたいなー
- 4 参考になりました。低学年でも活用できそうなので取り組んでみたい。もう少し、研修の機会があるといいかなと思いました。
- 5 プログラミングをなぜ行うのか、ICT 教育の政策へ至る過程など理論的な部分から具体的にどう指導するか、と言う実践まで短い時間で知ることができ、とてもありがたい講座でした。他にも日常や各教科でのプログラミング的思考を育てる取り組みや実践があれば知りたいです。



【令和2年2月25日】現地 ICT 支援員が入った公開授業の実施

- ◆5年生算数の授業を公開していただきました。授業者は藤原佳澄教諭。単元は「多角形の作図」です。教科書会社の東京書籍とリンクのある「プログル」を利用した授業です。本時のねらいは「外角」を使い、正多角形の作図をプログラミングすることができると、作図の手順を細分化し失敗経験を活かしながら課題を解決することができる、でした。
- ◆授業の導入は内角の復習からテンポよく入りました。中盤は「中学2年生の外角の予習」ですと先生が言うと、子どもたちはびっくり！子供たちの挑戦意欲を引き出します。そして、現地 ICT 支援員さんが iPad を配布して、プログラミングで正多角形の作図です。作業していく中で、外角が必要になることに気付いた子どもがたくさんいました。現地 ICT 支援員さんも授業者の先生の指示でテキパキと役割をこなしながら、大きなトラブルもなく授業のねらいをしっかりと達成できる授業となりました。



現地 ICT 支援員（藤原仁さん※普段の日はネイチャーガイドをされています）の実証後の感想

- 12月から短い間でしたがとても貴重な経験をさせて頂きました。最初いただいた話では iPad の準備と片付け程度のことと思っていましたが、これからの学校教育のことや地域教育のこと現在の教育現場等学ぶことが多い3ヶ月でした。
- iPad の有効性は実際に授業に入らせてもらい実感できました。複式学級では特に効果的に使われてたと思いました。また、一人1台あることによって自分のペースで集中して授業に取り組めてました。
- 地元支援員としては iPad の準備片付け、充電のチェックやソフトのインストール、授業中のフォローなどありました。ソフトに関してはやはりそれなりの事前準備や勉強も当たり前ながら必要だと感じました。ただわからないところは伊藤さんや武田さん（後方 ICT 支援員）にアドバイスいただけたので心強かったです。
- また、川湯小学校は「コミュニティースクール」としての取り組みもあり今回「地元」支援員として入らせていただいたことも重要だと感じました。地域の子供の教育を地元の人が見守る。そして支援できるというのはこれからの地域教育にとって大切なことです。
- 今後 ICT は様々な分野で活用されていくと思います。まずは子供のころからの ICT 教育が不可欠ですしそのような取り組みをしている地域や自治体が生き残っていくだろうと思います。また何かご協力できることあればお声掛けください。今後ともよろしくお願いします。ありがとうございました。

